

Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 63-49318

Laid-Open Date: April 4, 1988

Japanese Utility Model Application No. 61-142536

Filing Date : September 19, 1986

Inventor : Motoyasu KOBAYASHI

Applicant: Zeria Shinyaku Kogyo Kabushiki Kaisha

#### PAPER ASSEMBLY BOX

The present invention relates to a paper assembly box. In a box body formed by side boards (1), (2), (3), (4), their corresponding lid pieces (6), (7), (5), (8) and their corresponding bottom pieces (11), (12), (13), (14) are connected to the side boards (1), (2), (3), (4), respectively, through folding lines (A), (B), (D). Attaching pieces (9), (10) are connected to the lid pieces (7), (8), respectively, through a folding line (E). Cutout parts (P1), (P2) are formed in the attaching pieces (9), (10), whereby concave parts are formed by the cutout parts (P1), (P2) on a back surface of the lid piece (6) when the box is assembled and adhered. On a top part of the side board (1), an engaging part (Q) is attached corresponding to the concave parts.

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

# 公開実用 昭和63- 49318

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-49318

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

B 65 D 5/66  
5/02

識別記号

3 0 1

庁内整理番号

6540-3E  
6540-3E

⑭ 公開 昭和63年(1988)4月4日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 組立紙箱

⑯ 実 願 昭61-142536

⑰ 出 願 昭61(1986)9月19日

⑱ 考 案 者 小 林 資 康 埼玉県蕨市北町1-4-7  
⑲ 出 願 人 セリア新薬工業株式会 東京都中央区日本橋小舟町10番11号  
社

## 明 細 書

### 1. 考 案 の 名 稱

組立紙箱

### 2. 実 用 新 案 登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように側板(1)、(2)、(3)、(4)によって形成される筐体において側板(1)、(2)、(3)、(4)に対応する蓋片(6)、(7)、(5)、(8)並びに底片(10)、(11)、(12)を折目(A)並びに(B)及び(D)を介して連結し更に蓋片(7)、(8)には折目(E)を介して付着片(9)、(10)を連結する。



付着片(9)、(10)に切込部(P1)、(P2)を設け、これにより接着組立時蓋片(6)の裏面に凹面部を構成し、これに合致する係合部(Q)を側板(1)の上端部に設けてなる組立紙箱の構造。

### 3. 考 案 の 詳 細 な 説 明

#### (イ) 産業上の利用分野

本考案は、組立紙箱に関するものである。

#### (ロ) 従来の技術

従来この種の組立紙箱において一度開蓋して内容物を取り出した後、再び閉蓋した場合、接

触により固定されるため僅かな力により開蓋し、内容物の逸脱するおそれがあり、また反復使用した場合、接触部が弛み半開の状態になる欠点があった。

(ハ) 考案が解決しようとする問題点

本考案は一度開蓋して内容物を取り出した後においても閉蓋の際は再び蓋片6の裏面の凹面部分と側板1の係合部8が合致しヒンジ状に固定され容易に閉蓋しうるもので反復使用に耐え、同時に整理に便なるものである。

(ニ) 問題点を解決するための手段

本考案は図面に示すように側板1、2、3、4によって形成される筐体において側板1、2、3、4に対応する蓋片6、7、5、8並びに底片11、12、13、14を折目A並びにB及びD)を介して連結し更に蓋片7、8には折目Eを介して付着片9、10を連結する。

付着片9、10に切込部P1、P2を設け、これにより接着組立時蓋片6の裏面に凹面部を構成し、これに合致する係合部8を側板1の上

端部に設けてなる組立紙箱の構造に関するものである。

(\*) 作用

図面に示した本考案組立紙箱について説明すると側板 1、2、3、4 は折目 C を介して連設される。側板 3 の上端部に折目 A を介して蓋片 5 を設け蓋片 5 の左右には折目 D を介し蓋片 7、8 を設け、また上端部には折目 D を介し蓋片 6 を設ける。

蓋片 5、6、7、8 は接合組立後覆蓋を形成し、蓋片 6、7、8 は側板 1、2、3、4 とそれぞれ平行面となる。

蓋片 7、8 に連設される付着片 9、10 は蓋片 6 の裏面に接着され切込部 P1、P2 によって凹面部は側板 1 に連設した係合部 Q の形状と合致する。

底片 11、12、13、14 は側板 1、2、3、4 に対応してその下端に折目 B を介し連設される。

底片 11、12、13、14 は底板を構成するために任意の形状のものが用いられるが、例えば図面

の如く形成してもよい。付着片15は側板1、2、3、4にて筐体を構成する場合に利用され、側板1または4いずれかの側端に折目Cを介し設けられる。

本考案の組立てについては次の如くである。

折目Cに従い側板1、2、3、4を90°に折り曲げ、付着片15により筐体を構成する。

底板は適宜の封緘方法を用いるが例えば折目Bに従い底片12、14、13、11を順次折り曲げて接着してもよい。折目Eに従い付着片9、10を90°に折り曲げ折目Dに従い蓋片6、7、8を90°に折り曲げた後、蓋片6の裏面に接着剤を塗布して付着片9、10を接着して覆蓋を構成する。

#### (ハ) 考案の効果

本考案組立紙箱から内容物を取り出す場合、すなわち開蓋する場合は、蓋片6の上部を後上方に指にて押上げる事により折目Aが折り曲がり、容易に開蓋される。

開封後、内容物の一部を取り出した後、再び

閉蓋した時は係合部 Q が切込部 P1、P2 により形成された凹面に対し、ヒンジ状に合致し完全に閉蓋される。また、その時紙の弾性による音が発生し固定を確かめることが出来る。

#### 4. 図面の簡単な説明

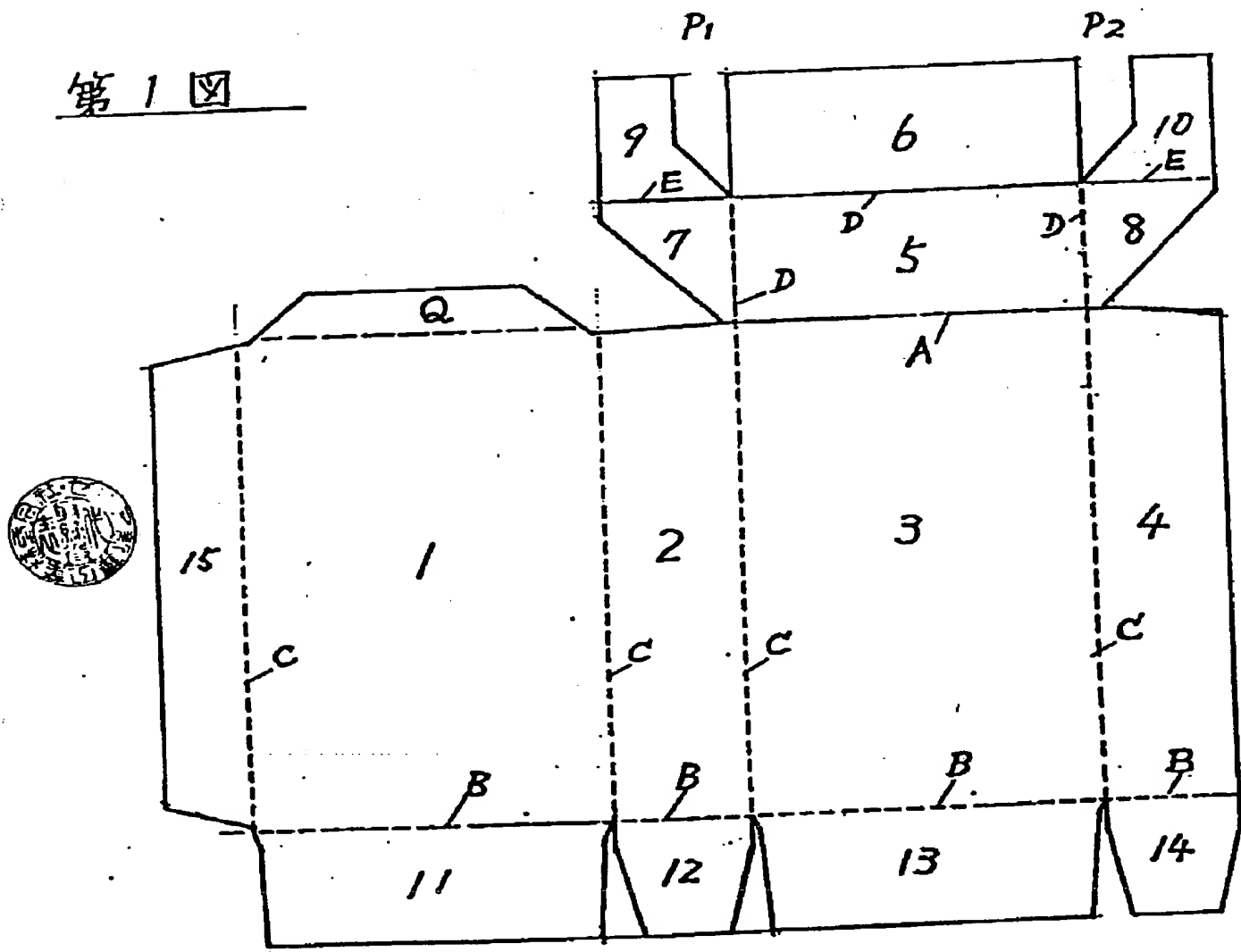
第1図は本考案紙箱の展開図、第2図は斜視図、第3図は破断部分により閉蓋時の内部、第4図は開蓋時の形状を示す。

実用新案登録出願人

ゼリア新薬工業株式会社



第1図



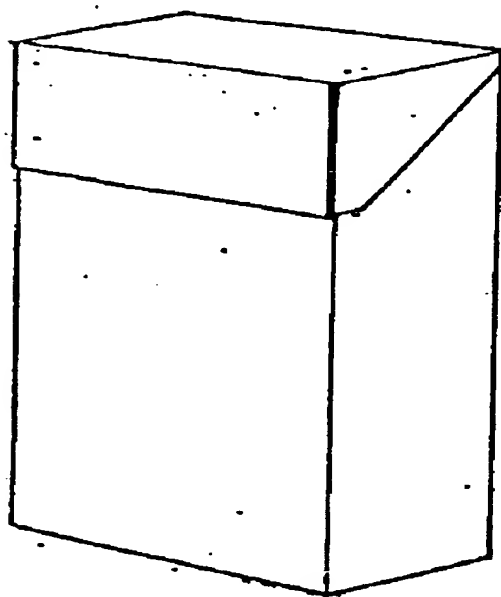
226

実用新案登録出願人

ゼリア新薬工業株式会社

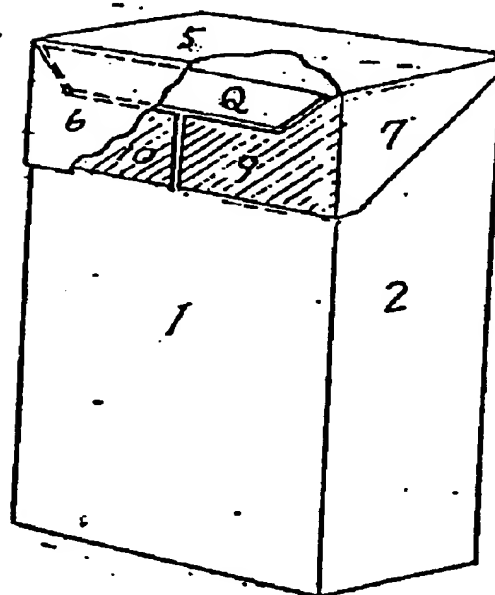
実用新案登録出願人

第2図



第3図

斜線部は接着面



第4図

